

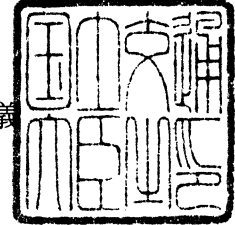


認定書

国住指第 4122 号
平成 21 年 3 月 4 日

吉野石膏株式会社
代表取締役社長 須藤 永一郎 様

国土交通大臣 金子 一義



下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 26 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法第 2 条第七号及び同法施行令第 107 条第二号（間仕切壁（非耐力壁）：1 時間）の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号
FP060NP-0189
2. 認定をした構造方法等の名称
片面強化せっこうボード重張／軽量鉄骨下地間仕切壁
3. 認定をした構造方法等の内容
別添の通り

（注意）この認定書は、大切に保存しておいてください。

別添

1. 構造名

片面強化せっこうボード重張／軽量鉄骨下地間仕切壁

2. 寸法

壁高及び壁幅については、構造計算等により構造安全性が確かめられた寸法とする。

3. 材料構成等

項 目	製 品 仕 様 等
① 被覆材 上張り材及び 下張り材(強化 せっこうボー ド)	規格：不燃材料認定番号 NM-8615(GB-F(V))、JIS A 6901 形状：平板 表面の形状：平滑 端部の形状 長辺方向：スクエアー、テーパー、ベベル 短辺方向：スクエアー 厚さ(mm)：21・25±0.5 かさ比重：0.77(-0.02)以上 大きさ(mm)：最小606×1,820、最大1,210×4,500 (*大きさは一般部における寸法を示す。)
② 下地材 上部ランナー	材料名及び規格 ・ 溶融亜鉛めっき鋼板(JIS G 3302) ・ 電気亜鉛めっき鋼板(JIS G 3313) ・ 溶融アルミニウムめっき鋼板(JIS G 3314) ・ 溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板(JIS G 3317) ・ 溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板(JIS G 3321) 形状・寸法(mm) □-100～500×35～75、厚さ0.5以上
下部ランナー	材料名及び規格 材料名及び規格は前記の上部ランナーに同じ。 形状・寸法(mm) a. □-100～500×35～75、厚さ0.5以上 b. L-100～500×35～75、厚さ0.8以上 bのL形ランナーを用いる場合は、間柱(スタッド)の下部をφ4mm以上×L13mm以上のタッピンねじで留め付ける。
間柱(スタ ッド)	材料名及び規格 材料名及び規格は前記の上部ランナーに同じ。 形状・寸法(mm) a. □-100～500×45～75×8～32、厚さ0.5以上 b. □-100～500×40～75、厚さ0.5以上 取付け間隔(mm)：606以下
振れ止め	材料名及び規格 材料名及び規格は前記の上部ランナーに同じ。 形状・寸法(mm) □-19～25×10、厚さ0.9以上 取付け間隔(mm)：1,200以下(高さ方向)

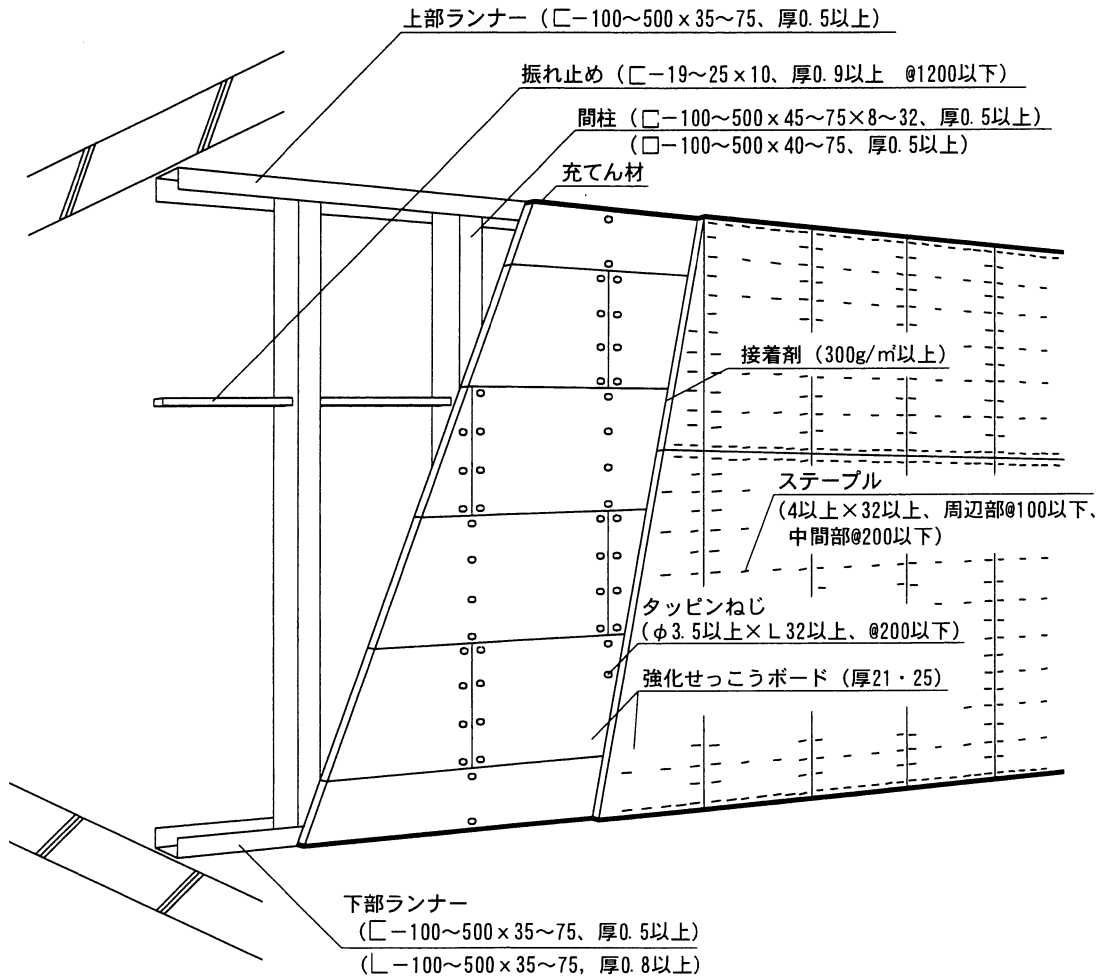
項 目	製 品 仕 様 等
③副構成材	<p>間柱(スタッド)用スペーサー</p> <p>材料名及び規格 材料名及び規格は前記の上部ランナーに同じ。 厚さ(mm)：0.5以上 取付け間隔(mm)：600以下(高さ方向)</p>
敷目板(必要に応じて取付ける。)	<p>種類等 せっこう板、せっこうボード、強化せっこうボード、不燃積層せっこうボード、繊維強化セメント板、グラスウール(10kg/m³以上)、ロックウール(10kg/m³以上)、グラスファイバーフェルト(10kg/m³以上)又はロックウールフェルト(10kg/m³以上) 寸法(mm)：厚さ1~25、幅40以上</p>
タッピンねじ、ステープル、接着剤等	<p>下張り材取付け用 タッピンねじ 寸法(mm)：φ3.5以上×L32以上 留め付け間隔(mm)：200以下</p> <p>上張り材取付け用 a. ステープル 寸法(mm)：幅4以上、長さ32以上 留め付け間隔(mm)：周辺部100以下、中間部200以下</p> <p>b. 接着剤 種類 酢酸ビニル樹脂系、アクリル樹脂系、ウレタン樹脂系、エポキシ樹脂系、ポリアミド系、ポリサルファイド系、シリコーン系、合成ゴム系、せっこう系、炭酸カルシウム系 塗布量(g/m²)：300以上 塗布間隔(mm)：周辺部100以下、中間部200以下</p> <p>c. タッピンねじ 寸法(mm)：φ3.5以上×L52以上 留め付け間隔(mm)：600以下</p> <p>取付け方法 上記aとbで下張り材に取付け、必要に応じて、cを併用して、間柱(スタッド)に取付ける。</p> <p>間柱(スタッド)のL形下部ランナーへの取付け用 タッピンねじ 寸法(mm)：φ4以上×L13以上</p> <p>敷目板仮留め用 a. タッピンねじ 寸法(mm)：φ2.8以上×L10以上</p> <p>b. 粘着テープ又は両面粘着テープ 粘着剤の種類 アクリル樹脂系、ポリアミド系、天然ゴム系、合成ゴム系 寸法(mm)：厚さ3以下、幅75以下</p> <p>c. 接着剤 種類：前記の上張り材取付け用接着剤に同じ。 塗布量(g/m²)：300以下 取付け方法：上記aからcのいずれかで間柱(スタッド)に取付ける。</p>

項 目	製 品 仕 様 等
③ 副構成材料 壁端部(柱・はり等との取り付け部)の処理材(充てん材)	<p>下張り材又は上張り材のどちらか一方に、あるいはこの両者に目透かしを設ける場合は、それぞれの目透かし部に次のaからcのいずれかを充てんする。目透かし幅は10mm以下とする。</p> <p>a. シーリング材</p> <p>種類 ポリウレタン系、アクリル系、アクリルウレタン系、ポリサルファイド系、ポリイソブチレン系、シリコーン系、変成シリコーン系</p> <p>目透かし幅1mm当たりの充てん量(g/m) 下張り材目透かし部：12以上 上張り材目透かし部：12以上</p> <p>b. ロックウール、ロックウール保温板、ロックウールフェルト、ロックウールモルタル、グラスファイバーフェルト 密度(kg/m³)：10以上</p> <p>c. せっこう系、炭酸カルシウム系無機質充てん材 目透かし幅1mm当たりの充てん量(g/m) 下張り材目透かし部：12以上 上張り材目透かし部：12以上</p>

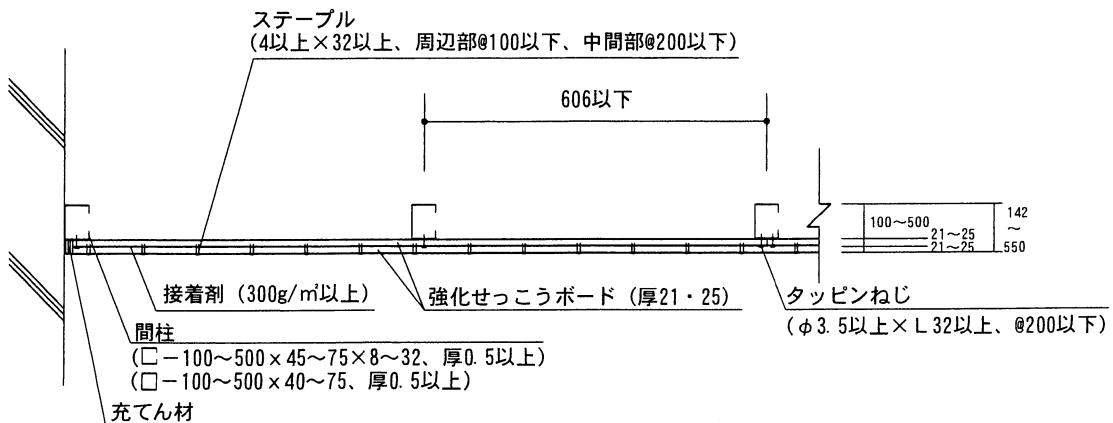
4. 構造説明図

(1) 透視図

(単位 : mm)



(2) 水平断面図

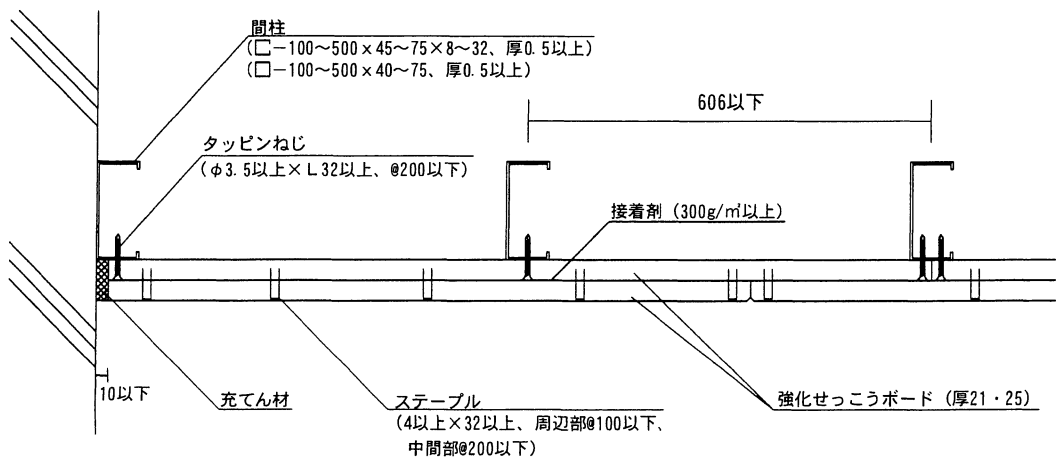
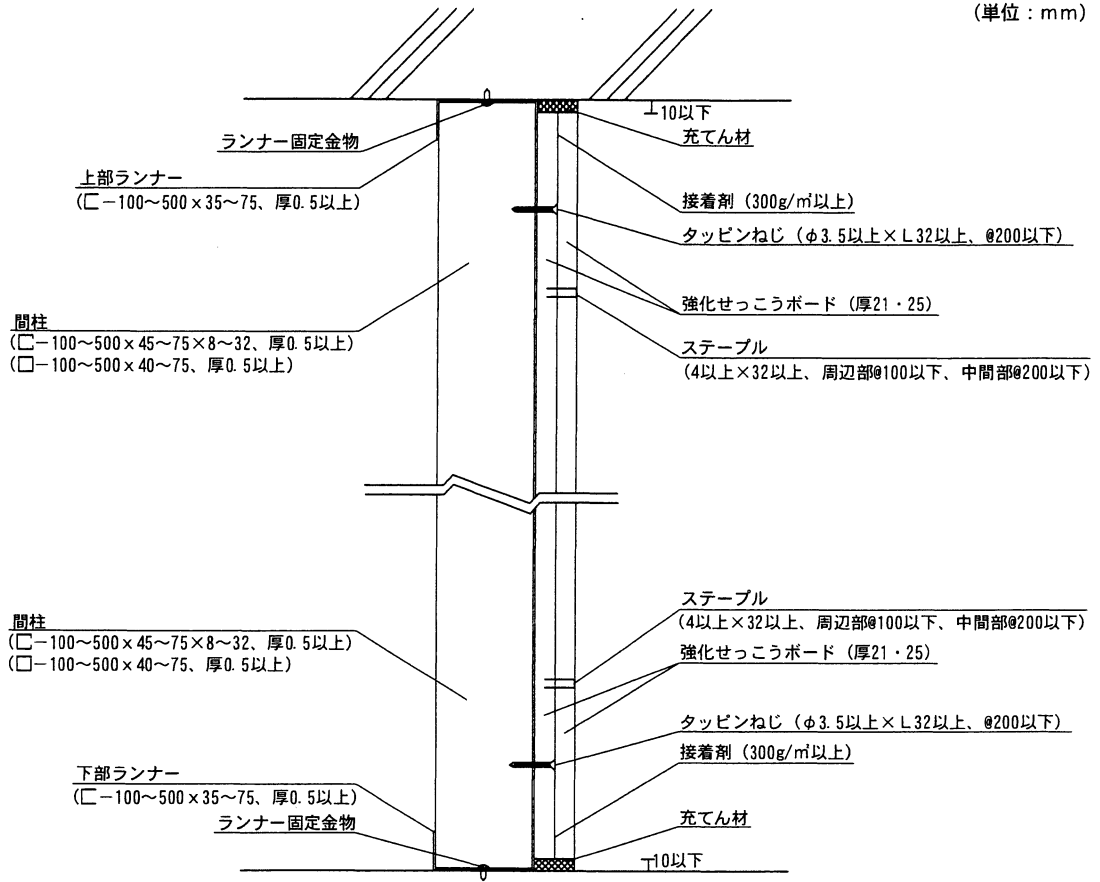


(3) 断面詳細図

①下部ランナーが□形の場合

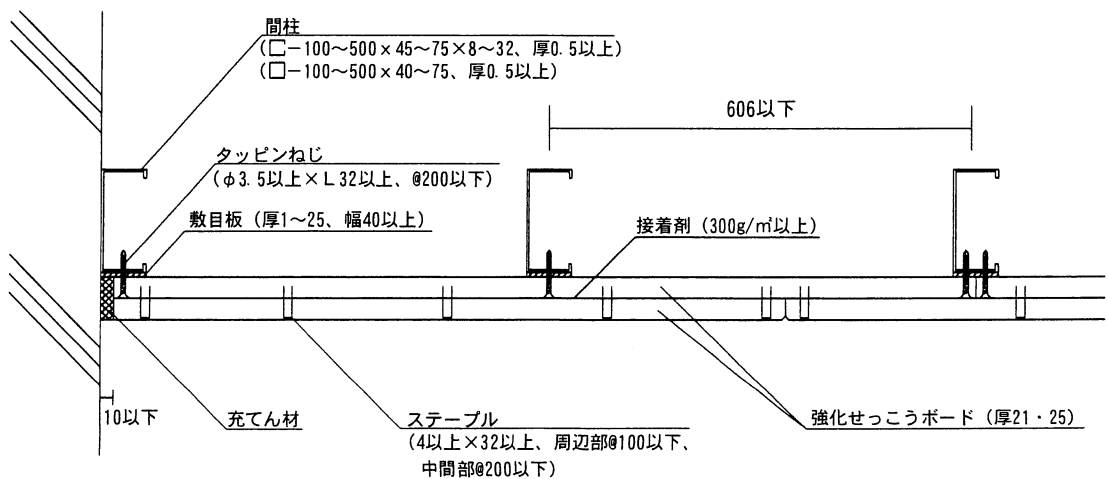
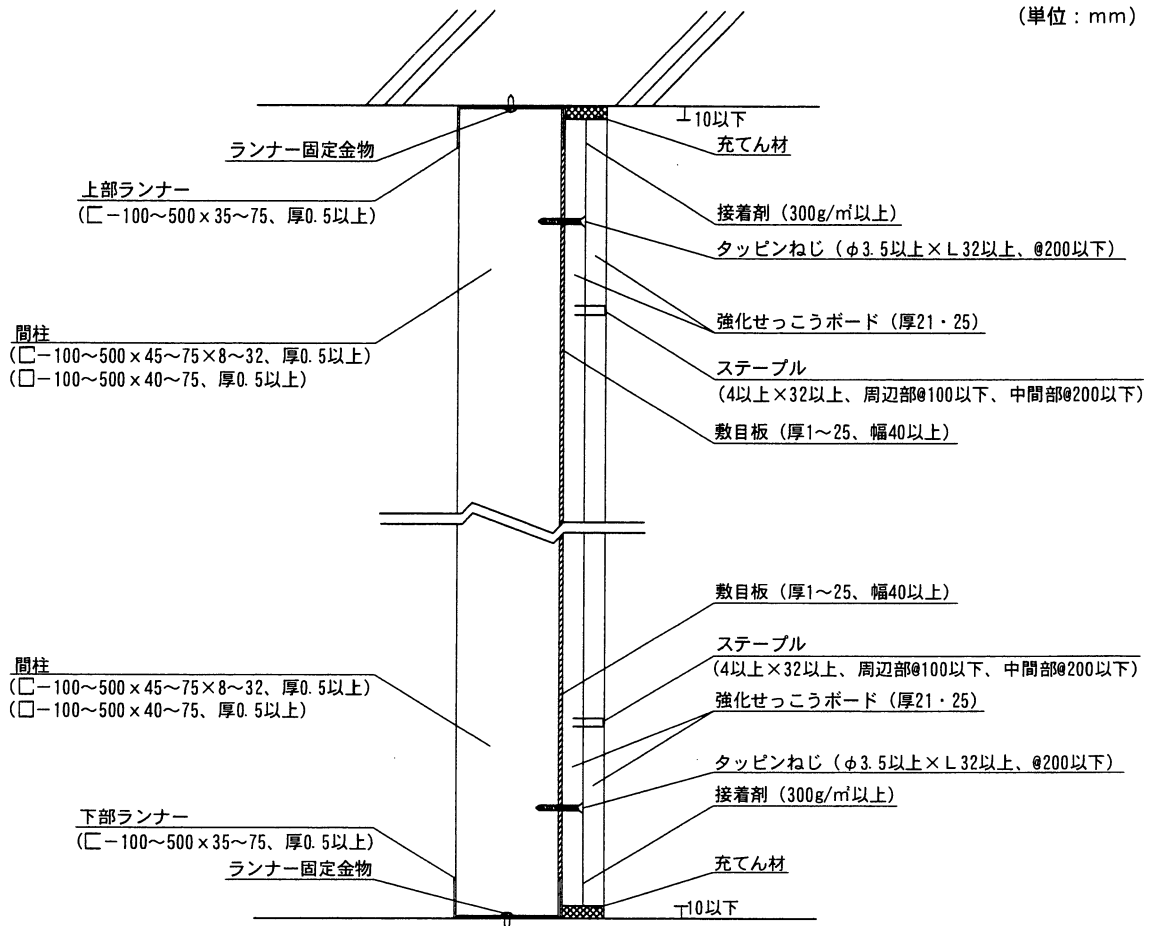
①-1 敷目板無し

(単位: mm)



①-2 敷目板有り

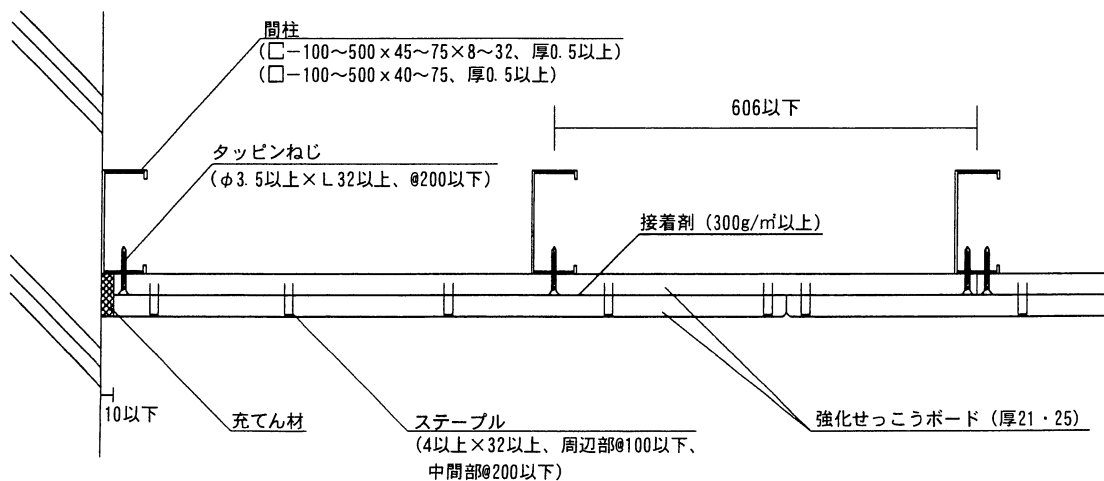
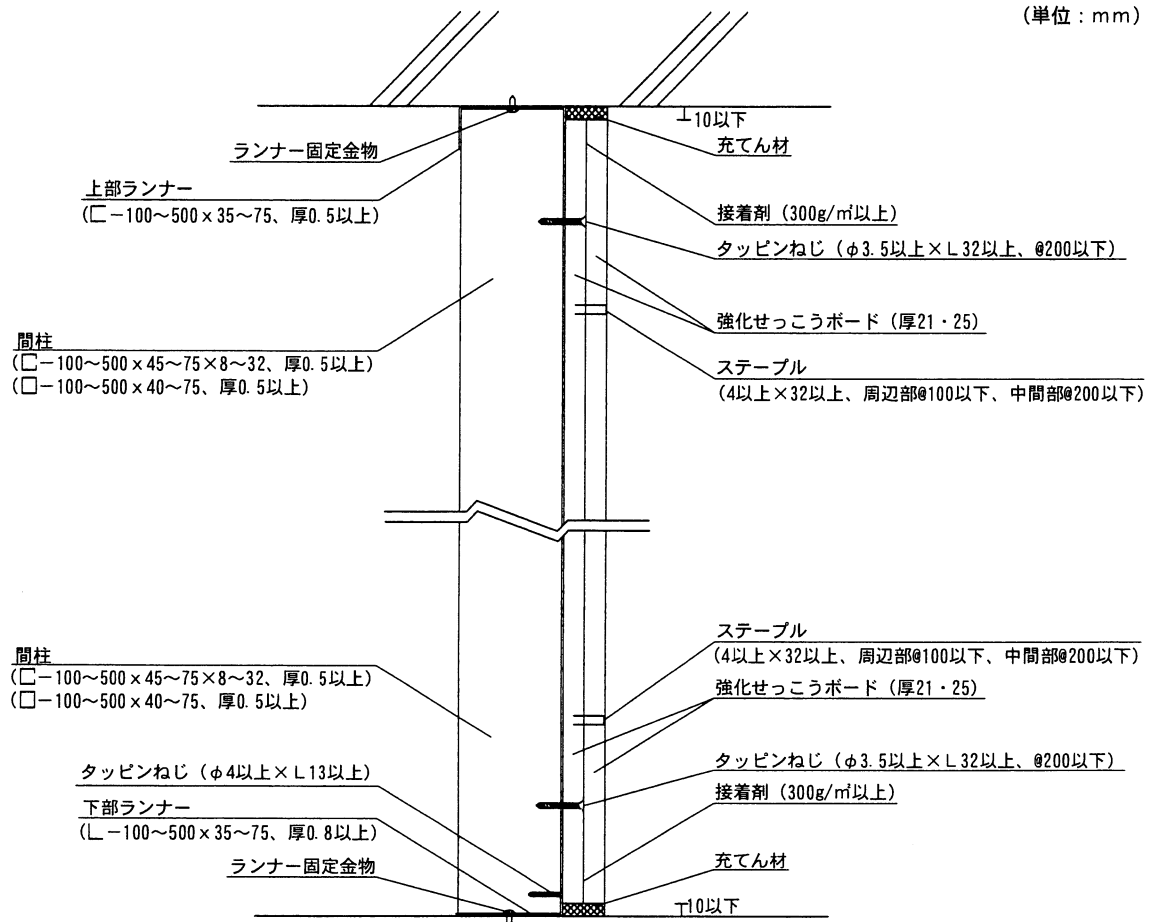
(単位: mm)



②下部ランナーがL形の場合

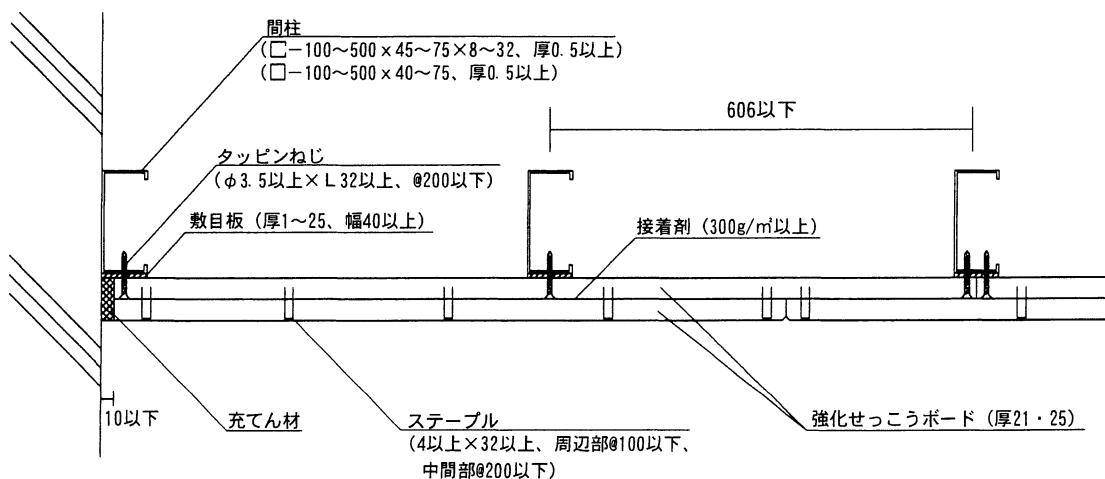
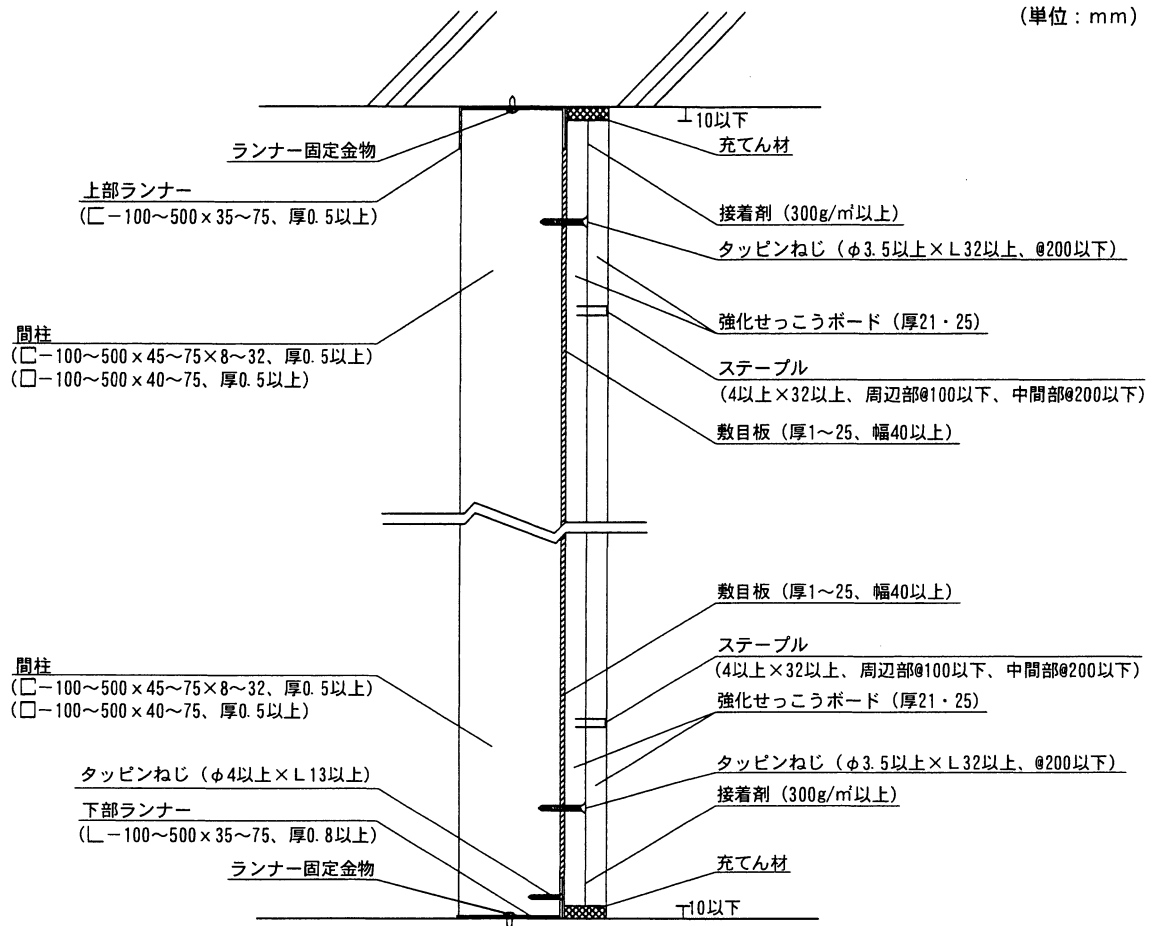
②-1 敷目板無し

(単位: mm)



②-2 敷目板有り

(単位: mm)



5. 施工方法

(1) 上部及び下部ランナーの取付け

上部及び下部ランナー(以下、上下ランナーという)を取付ける位置に墨出しを行う。上下ランナーを取付ける躯体がコンクリートの場合は、ランナー固定金物等にて、鋼製の場合は、ランナー受けピース等を介してタッピンねじ、溶接等にて、それぞれ900mm以下の間隔で上下ランナーを躯体に取付ける。

(2) 間柱(スタッド)の取付け

間柱(スタッド)を予め現場の寸法に合わせて切断し、606mm以下の間隔で上下ランナーに差し込んで固定する。なお、下部ランナーにL形ランナーを用いる場合は、間柱(スタッド)の下部を $\phi 4\text{mm}$ 以上 $\times L13\text{mm}$ 以上のタッピンねじでL形ランナーに取付ける。

□形タイプの間柱(スタッド)を使用する場合は、そのフランジ相互に、間柱(スタッド)用スペーサーを600mm以下の間隔(高さ方向)で挿入する。

(3) 振れ止めの取付け

振れ止めを予め現場の寸法に合わせて切断し、高さ1,200mm以下の間隔で間柱(スタッド)の側面の切欠き部に差し込んで固定する。

(4) 敷目板の取付け

必要に応じて、敷目板をタッピンねじ等で間柱(スタッド)に仮留めする。

(5) 下張り強化せっこうボードの取付け

下張り強化せっこうボードは、予め現場の寸法に合わせて切断し、その縦目地が通りの目地とならないように配置し、また、ボード同士の目地部は隙間なく互いに突き付けて、ボード表面を間柱(スタッド)に向けて $\phi 3.5\text{mm}$ 以上 $\times L32\text{mm}$ 以上のタッピンねじで200mm以下の間隔で間柱(スタッド)に留め付ける。

(6) 上張り強化せっこうボードの取付け

上張り強化せっこうボードを予め現場の寸法に合わせて切断する。接着剤を上張り強化せっこうボードの裏面に点付けする。この時、接着剤の点付け間隔は周辺部を100mm以下、中間部を200mm以下とし、接着剤の塗布量は $300\text{g}/\text{m}^2$ 以上とする。

上張り強化せっこうボードは、その目地が下張り強化せっこうボードの目地と重ならないように配置し、また、ボード同士の目地部は隙間なく互いに突き付けて、幅4mm以上、長さ32mm以上のステーブルで下張り強化せっこうボードに充分圧着させて取付ける。ステーブルの留め付け間隔は周辺部を100mm以下、中間部を200mm以下とする。

必要に応じて、 $\phi 3.5\text{mm}$ 以上 $\times L52\text{mm}$ 以上のタッピンねじで600mm以下の間隔で間柱(スタッド)に留め付ける。

(7) 壁端部の処理

下張り又は上張り強化せっこうボードのどちらか一方に、あるいはこの両者に目透かしを設ける場合は、目透かし幅を10mm以下とし、それぞれの目透かし部に充てん材を隙間なく充てんする。